



技術・伝統の倫理と景観

写真① W.グロピウス「デッサウ・バウハウス校舎」(1925-26, デッサウ) 写真②③④ 新宮町の古民家(景観研究センター研究テーマより)

物の生産と消費は、そのあり方しだいで自然の形態と機能の破壊につながり、生産・消費の存立そのものを危うくします。人と自然の相互作用の結果を、価値ある景観としてとらえるとき、物に対する人間の倫理的な側面が重要となるからです。本レクチャーシリーズは、技術と伝統に見られる倫理の側面をひとつの視座とし、景観のあり方を掘り下げることができるテーマを取り上げます。物を構築・再構築し、これを使う上でなにがポイントとなるのか、ゆっくりと議論をしてみましょう。

場所：九州産業大学景観研究センター 景観ライブラリー (23号館4階)

- | | | | | |
|-----|----------|---|------|--------------------------|
| 第1回 | 6月30日(火) | 民陶と工芸の景観を考える | 山下三平 | 九州産業大学 工学部都市基盤デザイン工学科 教授 |
| 第2回 | 7月17日(金) | 20世紀ドイツの芸術建築学校バウハウスにおける
景観(Landschaft)の考え方 | 富田英夫 | 九州産業大学 工学部建築学科 講師 |
| 第3回 | 7月28日(火) | 暮らしを創る、風景を創る | 山口 覚 | 津屋崎ランチ 代表 |

